

## 会議録

会議名 (審議会等名)	相模原市社会福祉審議会第51回（令和7度第2回）高齢者福祉等専門分科会				
事務局 (担当課)	健康福祉局地域包括ケア推進部地域包括ケア推進課 電話 042-769-9222（直通）				
開催日時	令和7年10月30日（木）9時00分～11時30分				
出席者	委員	9人（別紙のとおり）			
	その他				
事務局	地域包括ケア推進部長、地域包括ケア推進課長、 在宅医療・介護連携支援センター所長、福祉基盤課長、 高齢・障害者福祉課長、高齢・障害者支援課長、介護保険課長、 中央高齢・障害者相談課長、住宅課長ほか6名				
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人		
公開不可・一部不可の場合は、 その理由					

会議次第	<ul style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 あいさつ</li><li>3 議題<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 令和7年度高齢者等実態調査について</li><li>(2) 第10期高齢者保健福祉計画の策定について</li></ul></li><li>4 その他</li><li>5 閉会</li></ul>
------	---

## 審　議　経　過

内容は次のとおり。

### 1　開会

### 2　あいさつ

地域包括ケア推進部長よりあいさつを行った。

### 3　議題（★：対応結果）

#### （1）令和7年高齢者等実態調査について

【事務局】資料1及び資料2、資料3-1、資料3-2、資料3-3、資料5により説明を行った。

（梅澤委員）回答率と有効回答率はどのくらいか。設問数が多く複雑な質問があるので要介護の方については本人が回答するのが難しいと思われるが、調査員が派遣されるといったサポート体制はあるのか。

【事務局】令和4年度に実施した際の高齢者等実態調査の有効回答率は、高齢者一般調査：75.2%、高齢者介護予防調査：75.5%、介護保険認定者調査：57.3%となっている。

ご自身で回答するのが難しい方へのサポートについては、一部ではあるが、介護保険の認定調査の機会を活用し、認定調査員が自宅を訪問して、本調査項目の聞き取りを行う。

（ 笹野会長）調査票の中で、「介護従業者」という言葉を一貫して使用しているのはなぜか。「介護従事者」との違いは何か。

【事務局】国が示している調査内容等と整合性をとり、適切な表現に修正していく。

★厚生労働省の介護人材確保に向けた取組の中で、介護の業務に主として従事する人全体を示す広域的な表現である「介護従事者」を使用しているため、本市もこれに合わせて使用していく。

( 笹野会長 ) 追加・削除した項目について説明はあったが、中でも特に明確に意図して作成した設問項目等があれば教えていただきたい。

【事務局】★調査項目の設定に当たっては、基本的に国の指針に基づき作成しており、その上で第 10 期高齢者保健福祉計画を見据えた認知症施策や介護予防施策の推進を図るための市独自の設問を入れ込んだ形としている。

( 篠塚委員 ) 資料 2 の問 2 ( 5 ) 住まいや周辺環境について、今後、住み続けるうえでの主な問題点を問う設問であるが、設問に相応しくない選択肢がみられるため説明をいただきたい。

【事務局】差し替え資料にて修正をしている。

( 宮崎委員 ) 介護保険認定者調査の回収率 57.3 % とあるが、一般調査と介護予防調査に比べても回答率が低い。低い可能性として高齢者の一人暮らし等が考えられるが、回答率を上げるために認定調査員の聞き取り以外で何か工夫していることはあるか。

【事務局】介護保険認定者調査は、他の 2 調査と比べて 20 ポイント近く回答率が低いため、今後、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターに周知し、協力を得ながら回答率を上げていきたいと考えている。

( 宮崎委員 ) 高齢者の方々に調査への回答を促すため、地域包括支援センター等様々な機関に声を掛ける等して協力要請をしていただきたい。

( 大神田委員 ) 以前、地区の老人クラブの会員を対象にアンケートを実施したことがある。「高齢になったときに一番あなたが心配することは何か」という設問への回答に、多くの会員が「住み慣れた場所・家で最期を迎えたい」と回答した。次の「そのためには、地域としてどのようにしたら良いのか」という設問への回答は、「気心の知れた人に見守ってもらいたい」という回答がほとんどだった。一般調査と介護予防調査の調査票に問 7 「たすけあいについて」という項目があるが、そういう見守りに関する設問はあるのか。

【事務局】問 7 「たすけあいについて」は、各小間に回答する際の選択肢に家族、近隣等の項目を設けているところである。

問 7 ( 5 ) に家族や友人・知人以外で、何かあった時に相談する相手がいるかを

問う設問があり、選択肢に地域包括支援センター、市役所等の選択肢を設けているが、選択肢に地域の仲間や通いの場のスタッフ等を追加する方向で検討する。

★問7（5）の選択肢に、「通いの場のスタッフ」を追加した。

（大神田委員）ゆるやかな支え合いが求められているが、問7「たすけあいについて」から得られた調査結果から実態を知り、考えていただくことは非常に良いと思う。

（ 笹野会長） 最期というお話もあったが、看取りという言葉もある中で、見守りでよいか。終活の意味合いであるならば、看取りという言葉は本調査にふさわしくないと考えられる。

（武部委員）オーラルフレイルについての項目が入ったのは良いと思う。口腔機能の問題は非常に大事だと思う。

高齢者の人権侵害について、特殊詐欺の被害が深刻のため、一般調査と介護予防調査の問11（11）の選択肢に、特殊詐欺に関する項目を追加することを検討してほしい。

【事務局】全体の構成の中で調整し、関係各課に確認し検討する。

★問11（11）の選択肢に、「特殊詐欺被害の撲滅」を追加した。

（荒谷委員）独居が多い地域もあり、そこに注視した施策を考えてほしい。ボランティア協会で、高齢者の傾聴の活動をしているが大変喜んでくれる。そのような気持ちが高齢者施策の中で必要であると考えている。

（ 笹野会長）切実で大事なご意見だった。地域の結びつきが一番であり、高齢者の孤立・孤独が地域福祉の全体の課題であると考えている。こういった意見を次期計画に活かしてほしい。

（佐々木委員）一般調査と介護予防調査の問6（6）就労状態について、設問として働いているか否かを確認するならば、求職活動中という選択肢があってもよいのは。

【事務局】今後の施策につながるかと思う。検討して進める。

★問6（6）の選択肢に「求職中」及び「休業・休職中」を追加した。

（大久保委員）一般調査及び介護予防調査の問11（11）高齢者施策について、選

択肢の①は第9期高齢者保健福祉計画を見ると、有料老人ホームとサ高住を増やして、特養等の新設は控えるとなっているが、この設問だと第9期の評価ができない。特養とグループホームの2つ単語が入ってるとこれにとらわれてしまう。特養とグループホームを増やしてほしいのかを聞いていているのと同じで、サ高住は選択肢④「高齢者向け住宅施策の推進」に入っていると思うが、有料老人ホームが抜けてしまっている。計画が妥当なのかどうかをこの質問から図れるとしたらもう1つ選択肢として、「介護を受けるための有料老人ホーム」を作ったほうが良いのではないか。計画で推進していない特養やグループホームをほしいか聞いてもあまり意味がなく有料老人ホームがほしいかを聞いた方がよいと思われる。

【事務局】経年の変化も考慮する必要があるため、選択肢の追加については検討する。

★問11（11）の選択肢に「介護を受けるための有料老人ホームの充実」を追加した。

## （2）第10期高齢者保健福祉計画の策定について

【事務局】資料4により説明を行った。

（笹野委員）会議の実施予定はいつか。

【事務局】アンケートを締切った後、委託業者にて3月下旬まで分析等の作業が続くと思われる。3月の審議会では速報値となるかもしれないが状況の説明させていただきたい。次年度については計画策定ところで年間5回程度の審議会を予定している。第1回目の審議会でアンケートの最終的な結果、計画の素案を示し、議論いただければと思っている。

第1回は6月～7月に実施し、ある程度素案を作った形でその上で諮問という流れに、その後、3回程度皆様から議論した内容を反映させながら10月ごろに答申をいただけたらと考えている。

（大久保委員）今回の調査で高齢者等実態調査にて介護される側、介護職員等に対する就労意識調査にて介護する側の両方の意見を聴取するわけだが、朝のニュースにて公共施設等の老朽化が激しく、予算繰りに困っていると聞いた。特養の老朽化も激しい。特養の修繕費等については、国から降りてくる一般財源に含まれていると理解している。

ソフト面の意見聴取をするのであれば、ハード面の意見聴取もしてほしい。介護事業者の経営実態等の問題についても初期の段階で、重要な問題として捉えて取り

組んでほしい。

【事務局】担い手の確保などの課題もあり、関係団体等から意見を聞くことも検討していく。

(宮崎委員) 高齢者等実態調査について。認定調査で200件ほど回っているが、サ高住に住んでいる方が多い印象である。サ高住の施設入所の方は対象外になるのか。本調査でそういった方々の気持ちは拾えないのか。

【事務局】直接的に、サ高住に住んでいる方に対する調査は行っていないが、無作為抽出の中に調査対象として入ることはある。

(宮崎委員) 介護保険認定者調査の調査票に、介護施設等に入っている方は答える必要はないとある。サ高住など小規模施設に入っている方は特に自分が施設に入っている感覚が強いのではと思うが、サ高住に住んでいる方で調査票に答える方もいらっしゃるのか。

【事務局】資料3-3の冒頭に、あて名のご本人の状態について聞いている。

選択肢としてサ高住を設けていないが、サ高住は介護保険に適用ではなく選択肢②の「現在、介護保険施設等に入居・入所している」に該当しない。サ高住に住んでいる方は調査の対象となるが、表現として回答者が分かりにくいため選択肢の修正を検討させていただく。

★選択肢の一つとして「サービス付き高齢者向け住宅（一般型）に入居している」を追加し、これに該当する方はその後の設問に回答していくように変更した。

(宮崎委員) 一般的には施設だから②の介護施設等でいいのだと解釈する人もいるので、介護保険外のサ高住や小規模の老人ホームも調査対象等の注釈をいれていただければと思う。

#### 4 その他

【事務局】第9期高齢者保健福祉計画の進捗状況の前回報告できなかった項目について、資料6の説明を行った。

(質疑なし)

(笹野委員)

短期集中予防サービスは第9期高齢者保健福祉計画の主要な施策であり、今後数字

が上がることを期待する。

## 6 閉会

以 上

相模原市社会福祉審議会高齢者福祉等専門分科会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒 谷 進	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
2	梅 澤 慎 一	一般社団法人相模原市医師会		出席
3	大神田 賢	相模原市老人クラブ連合会		出席
4	大久保 祐 次	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	職務代理	出席
5	大 貫 君 夫	相模原市民生委員児童委員協議会		欠席
6	佐々木 学	相模原公共職業安定所		出席
7	笛 野 章 央	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	会 長	出席
8	篠 塚 実希子	相模原市自治会連合会		出席
9	島 森 政 子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		欠席
10	武 部 正 明	学校法人相模女子大学		出席
11	田 中 雄一郎	相模原市歯科医師会		欠席
12	宮 崎 文 枝	相模原人権擁護委員協議会		出席